

第2回白川静漢字教育賞の選考結果について

- 1 募集状況 (1)募集期間 平成26年5月19日～9月19日 (2)応募総数 64点
- 2 選考経緯 (1)選考委員会 日時 平成26年10月2日(木) 午前10時より
場所 県庁2階 中会議室
- (2)選考委員 棚橋 尚子 (奈良教育大学教育学部教授)
加藤 徹 (明治大学法学部教授)
五十嵐利幸 (福井新聞社特別参与)
津崎 幸博 (立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所客員研究員)
林 雅則 (福井県教育長)

3 選考結果

最優秀賞 (1名)

氏名	地区	所属	年齢	応募者について	主な内容	授賞理由
すずきえいこ 鈴木英子	宮城	宮城県国際化協会 日本語講座 スーパーバイザー	59	比治山女子短期大学国文科卒 自著 『漢字授業の作り方』(アルク出版) 『使って覚える楽しい漢字』 (宮城県国際化協会)	日本語を学ぶ外国人が楽しく漢字を学ぶための指導方法 20年間の集大成として日本語教師に向けた『漢字授業の 作り方』をまとめる。	・漢字弱者である外国人に対して、漢字のすばらしさ、奥深さを教えるという努力が見える。 ・白川博士の「字統」等をもとに、日常生活で使う漢字を分類・整理して教材を作るなどの指導法が示されている。 ・実際の学習者の視点に立ち、独自の指導法の工夫が評価できる。 ・外国人居住者が増加する現状にあって、社会的にも価値のある取組みと考えられる。

優秀賞 (3名)

氏名	地区	所属	年齢	応募者について	主な内容	授賞理由
くりばやしいくお 栗林育雄	新潟	十日町市立 田沢小学校	42	新潟大学大学院卒 上越教育大学論文入選 (H9詩の創作・ H19漢字学習指導) 長岡市教育委員会論文優秀賞 (H21作 文・H23説明文)	4ステップの漢字学習 ・つかむ(漢字学習の楽しさ-ゲーム性のある学習教材) ・広げる(漢字への興味-体系的な指導、プリント) ・深める(自主的学習-学習環境の整備) ・確かなものにする(全校体制-オリジナル検定型教材)	・丁寧で地道な小学校での実践 ・「漢字カルタ」、「漢字しりとり」を活用して漢字の楽しさを感じさせ、その後に、成り立ちや、部首による漢字の体系など段階的な指導を行っており、他校への汎用性が看取できる。 ・漢字教育をバリエーション豊かに総合的に組立て、児童が主体的に楽しめる実践である。
おかもととしあき 岡本利昭	兵庫	神戸大学附属 中等教育学校	50	神戸大学教育学部卒 元大阪府教育委員会指導主事 第2回船橋聖一賞 (S61) 第5回諸橋轍次博士記念漢詩大会優秀賞 (H25) 日本教育公務員弘済会教育賞 (H14)	①クラス漢和辞典づくり 生徒一人一人が選んだ漢字を調べ、クイズ形式等を取り入れ辞典を作成 ②自作の漢詩づくり 高校2年生の修学旅行の思い出作文を漢詩で作成 ③神戸大学での教職志望者への実践	・中学での「漢和辞典づくり」の実践は漢字の意味を再確認させ、主体的に考えさせる活動になっており評価できる。 ・高校では、漢詩の実作ができるようにするなど、レベルの高い先進的な取組みとして漢字教育の可能性を広げた。 ・教員養成系の学生に対して講義を行い漢字・漢文教育の振興に努めている。
あいのわじゆんこ 菱輪潤子	福井	福井市立 東郷小学校	46	福井大学教育学部卒 福井県自作視聴覚教材コンクール優秀賞 漢字教育士	①校内に漢字コーナーを設置し、児童が古代文字や漢字に触れる機会を設けるなど、漢字および古代文字への興味を高めるコーナー作りを実践 ②副読本「楽しい漢字学習(福井県教育委員会編)」を主に使用しながら授業実践	・小学校で漢字を身近に感じさせるために、子どもたちの漢字への関心を高めることを意識した校内掲示の実践 ・年間を通して継続的に努力されており、福井県の実践を代表するような事例である。 ・全校児童に対してアンケートをとり、子どもたちの漢字に対する興味・関心の高まりを明らかにしている。

特別奨励賞 (1名)

氏名	地区	所属	年齢	応募者について	主な内容	授賞理由
ふくだゆみこ 福田由美子	佐賀	佐賀県立盲学校	63	佐賀大学教育学部 佐賀県教育長表彰 教育実践論文で佐教弘賞	全盲の生徒への漢字指導 ・「部首3Dカード」や、知的障害を併せ持つ生徒のための、組み合わせると漢字になる「合体カード」、パソコンを使ったフラッシュカードなどの教材を多数開発	・盲学校で全盲の生徒などに対して、漢字を習得させやすくするための実践 ・部首を触覚で確認できる3Dカードなど、生徒のつまずきを熟知した上で多くの工夫がされた教材 ・一般校における漢字が苦手な子に対する指導のヒントとなり、汎用が非常に期待できる取組みである。